

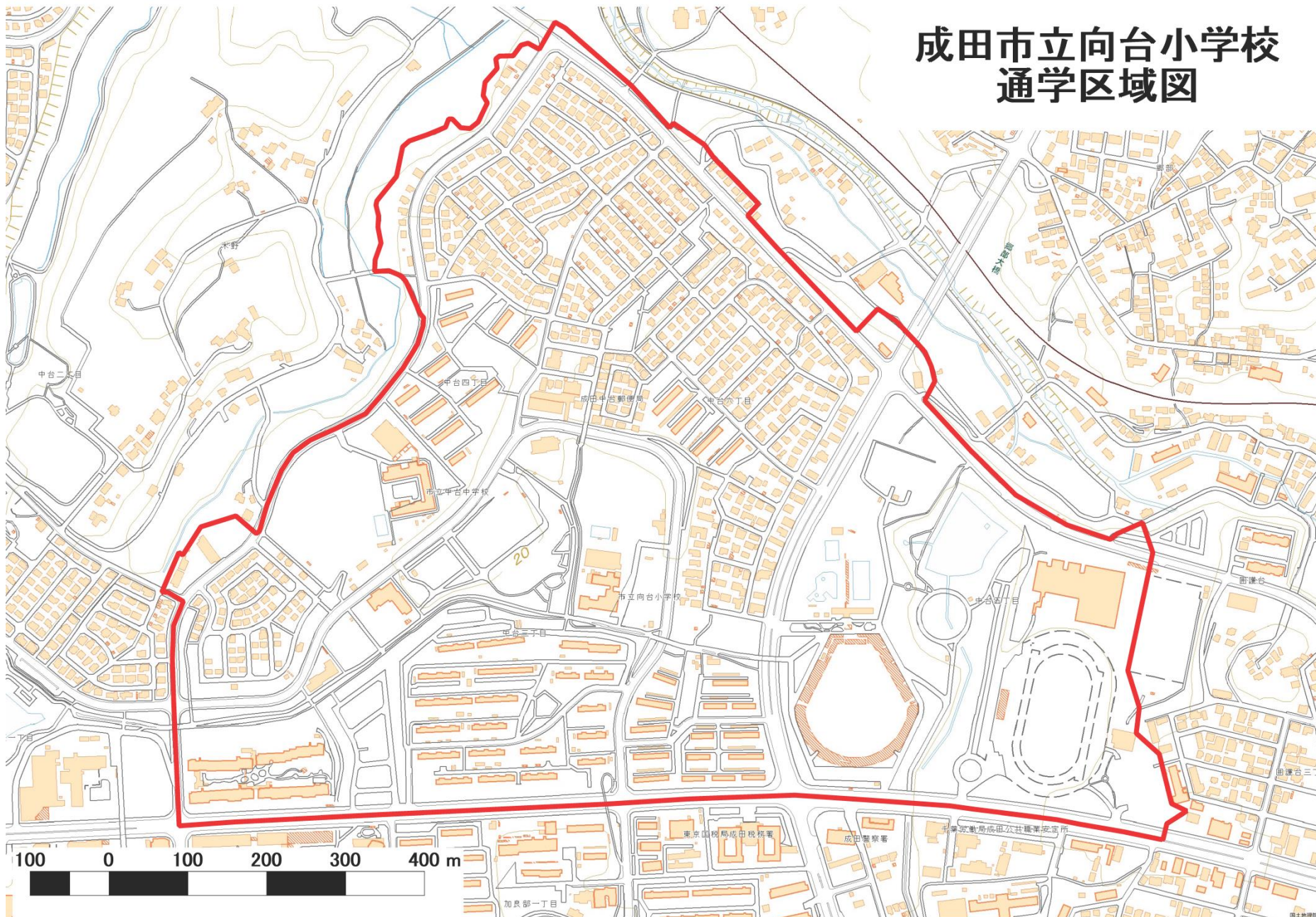
Applied Spatial Information Science III: An Introduction to Community Security Checks Using “Kiki-Gaki Map”

#11: Practical Applications (3)

Yutaka HARADA
National Research Institute of Police Science

News!

成田市立向台小学校
通学区域図



Thank you for your comments!

- 系列店の競争はビジネスの拡張のために試行錯誤がなされており、学べることが多いなと感じた。
- テーマを決めてやることがポイントだなと思いました。
- 情報に付加価値をつけたり、地元の人のみが知るような情報を取り入れ民俗学的な調査をしたり・・・多様な使い方がある。
- 実際に取り組んでみることで・・・理解が深まっていく。
- 次回に私が担当するので、新たな発見ができるようにしたいです／参考になってよかったです。

2016/03/01 12:28:00

22

- GPSがうまく作動せず、せっかくとったものがとれていないというのがあった。
- 音声の時間を正確に合わせることが難しいと感じた。
- 思っていたよりどうしようもない内容になってしまっていた・・・
- ケータイですべてできたら楽で面白い。

Cooperating with Volunteer Tour Guides (1)

“Maido-san” in Kanazawa City

まちなあるき記録作成支援ツール『聞き書きマップ』 - マイデフォルトマップ

ホーム 表示 ツール 表示設定 まちなあるき記録作成支援ツール アドイン

まちなあるき記録作成支援ツール

1. 時報を表示する
2. データを読み込む
3. 音声を聞いてメモにする
4. 結果を...

2015/09/16 14:05:07 DSCN4408.JPG

メモ欄

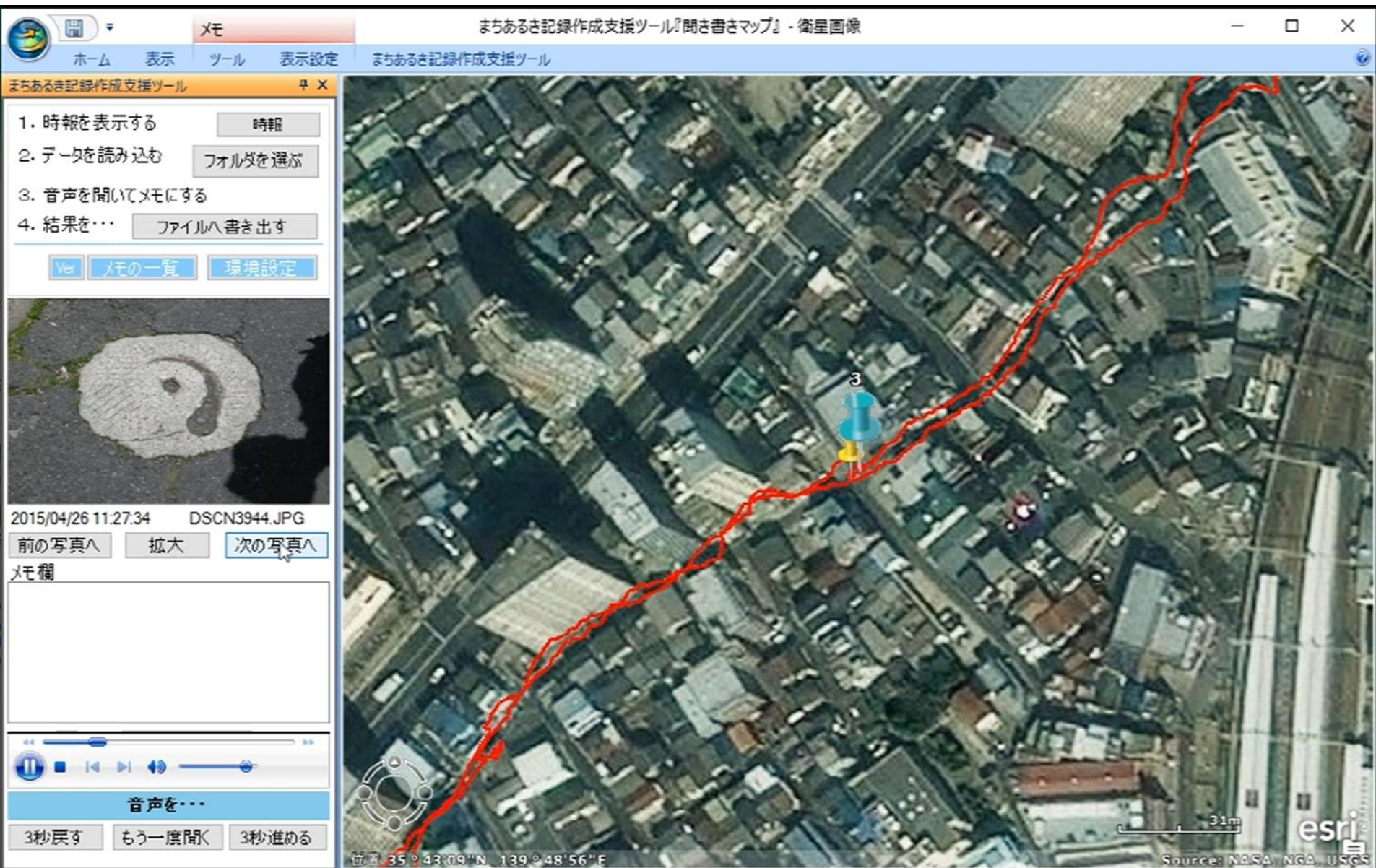
音声...

Source: Esri, DigitalGlobe, GeoEye, Earthstar Geographics, CNES/Airbus DS, USDA, USGS, AEX, Getmapping, Aerogrid, IGN, IGP, Sw

The screenshot displays the 'Machinaruki' (まちあるき) software interface, which is used for creating audio-guided tours. The main window shows a satellite map of Kanazawa City with a red line indicating a tour route. Numerous yellow pushpin markers are placed along the route, each labeled with a number (e.g., 46, 52, 54, 71, 39, 64, 10, 29, 8, 7, 86, 90, 113, 122, 126, 132, 135, 138, 141, 146, 147, 165). The interface includes a sidebar on the left with a photo of a volunteer guide (Maido-san) and a list of numbered pins. The top menu bar contains options like 'ホーム' (Home), '表示' (Display), 'ツール' (Tools), and '表示設定' (Display Settings). The bottom status bar shows the source of the map data: Esri, DigitalGlobe, GeoEye, Earthstar Geographics, CNES/Airbus DS, USDA, USGS, AEX, Getmapping, Aerogrid, IGN, IGP, Sw.

Cooperating with Volunteer Tour Guides (2)

“Association of Mukojima Studies”



♪ Homework ♪

4. 『聞き書きマップ』の教育力



『聞き書きマップ』を使った安全教育の授業風景

『聞き書きマップ』を学校などで活用することから、さまざまな教育的効果が生まれます。本章では、私たちもお手伝いして平成27年度から実施してきた文部科学省のモデル事業での経験を踏まえて、その豊かな可能性について説明します。

(1) 自分を守る「総合力」・周囲の人との「心の絆」

本年(平成29年)3月24日付けで閣議決定された「第2次学校安全の推進に関する計画」(文部科学省 2017)のなかに、次のようなことが述べられています。

地域の防犯、防災、交通安全に係る安全マップづくりは、児童生徒等自身に周囲の環境における危険箇所の確認や危険予測を行わせたり、具体的な行動を考えさせたりする上で有効であるが、地域の歴史や自然環境を学ぶための活動を関連させることにより、児童生徒等が地域を様々な観点から理解することにも役立つものである。このため、安全教育の観点だけではなく、教科等の目標と関連付けた地域学習の一環として位置付けるなどの工夫が必要である。(p.19)

この考え方に、私も大賛成です。子どもたちのすこやかな成長のためには、身のまわりに潜む危険について知ることも必要ですが、それ以外のこともたくさん学んで、ものごとをバランスよく判断できる「総合力」を身につけることが、何より大切だと思うからです。

もう一つ、子どもたちの成長のために欠かせないと思うものがあります。それは、周囲の人たちとの「心の絆」を育むことです。第2章で説明した「発達の犯罪予防」に関する研究でも、人々が非行や犯罪に陥るのを防ぐ「防御因子」として、成長の段階に応じた、周囲の人たちとの「絆」の形成が重要であることが知られています【#文言再考:これはまだ書いてない。2章に要追記】。心の通う「あの人」や「この人」の存在が、人生の道に迷いそうになったとき、いわば「命綱」のように、人を正しい道へと引き戻す力になるということです。

このような、子どもたちの「総合力」の育成や、地域の方々との「絆」の